

農作物技術情報 第7号 水稻

発行日 令和8年9月24日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

- ◆ 刈遅れは着色粒や胴割粒、白未熟粒の混入率を高めるので、速やかに刈取りを終えましょう。
- ◆ 倒伏したほ場では、コンバイン等の作業速度を遅くし、刈分けにより品質確保に努めましょう。
- ◆ 胴割粒の発生防止のために、丁寧な乾燥を心掛けましょう。
- ◆ わらの分解を促進するため、秋の早い時期に稲わらのすき込みを行いましょう。
- ◆ 日没が早まる時期なので、無理をせず安全第一の農作業を心掛けましょう。

1 県内の刈取り進捗状況

- (1) 9月17日現在、県全体の水田の7%で刈取りが終了しており、地帯別では、北上川上流8%、北上川下流7%、東部4%、北部4%となっています。
- (2) 刈取り始期（10%）は、平年より4日早い9月18日頃に到達したとみられます。

表1 県内水稻の刈取り状況（9月17日現在、各農業改良普及センター調査）

	進捗率(%)				本年（月/日）			平年（月/日）			平年差（日）
	本年	R7	R6	R5	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期
北上川上流	8	23	29	23	[9/18]			9/22	10/3	10/14	[-4]
北上川下流	7	19	27	21	[9/18]			9/22	10/2	10/12	[-4]
東 部	4	23	42	27	[9/20]			9/21	9/30	10/12	[-1]
北 部	4	27	22	19	[9/20]			9/24	10/4	10/16	[-4]
県 全 体	7	21	28	22	[9/18]			9/22	10/2	10/13	[-4]

- 1) 県全体…地帯別の水稻作付面積比による加重平均。
- 2) 刈取り時期…始期：10%、盛期：50%、終期：90% の水田で終了した日。
始期〔括弧書き〕は、平成28年～令和7年の10ヵ年の進捗率を基に推定した値。
- 3) 平 年…平成28年～令和7年の10ヵ年の平均値。

2 品質確保に向けた収穫対策

- (1) 刈遅れは着色粒や胴割粒、白未熟粒の混入率を高めるので、速やかな刈取りに努めます。
- (2) 倒伏した稲では、青未熟粒や穂発芽粒が混入することがあります。このため、倒伏していない正常な稲と区分して収穫します。また、水口付近など、周りと比べて生育等が著しく異なる部分も刈分けし、未熟粒や被害粒の混入を防ぎ、玄米品質の均質化に努めます。
- (3) 倒伏した稲を収穫する場合は、コンバイン等の作業速度を遅くし、丁寧な刈取りを行います。
- (4) 例年10月は台風の発生が多い時期です。台風接近前は農作業安全に留意しつつ、可能な限り刈取りを進めるとともに、通過後は速やかに作業開始できるよう、排水対策を徹底します。

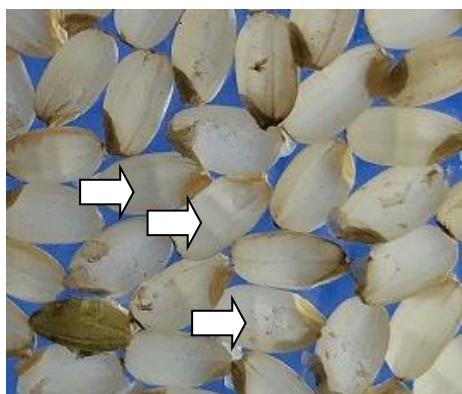


図1 胴割粒（矢印）



図2 乳白粒（矢印）

3 乾燥・調製の留意点

胴割粒の発生を防ぎ、玄米品質を確保するため、仕上げ水分15.0%以下を徹底し、丁寧な乾燥・調製を心掛けます。

具体的な留意点については、令和8年8月27日発行の「[農作物技術情報第6号 水稻](#)」を参照ください。

4 秋耕起（稲わらの腐熟促進）

- (1) 稲わらの秋すき込みは、春すき込みに比べわらの分解が進むため、入水後の「わき（硫化水素や温室効果ガスであるメタン）」の発生や窒素飢餓による水稻の生育抑制を軽減できます。わらの分解は、地温 15℃以上で促進されますので、秋の早い時期にすき込みできるよう、適期刈取りに努めます。
- (2) 稲わらの腐熟促進を図るための耕起は、5～8 cm 程度の浅耕とします。
- (3) 切りわら散布後、腐熟促進肥料（石灰窒素の場合、10a あたり現物 15～20kg）または家畜ふん堆肥（窒素換算で 5 kg/10a、発酵豚ふんや鶏ふんなど C/N 比が低いものが望ましい）を施用してすき込むことで、わらの分解が一層促進されます。
- (4) 湿田では、わらはたい肥化して施用することが望ましいですが、困難な場合は稲わら等のすき込み後、排水溝の設置などにより地表水の排除に努めます。

5 農作業安全

日没が早まる時期です。夕方に事故の発生が多いので、計画的かつ慎重な作業を心がけます。

- ・ ほ場での移動、運搬の際の転倒事故や車の追突事故に注意します。
- ・ コンバインにわら等が詰まった際は、必ずエンジンを止めてから作業を行います。
- ・ 夜光反射材や低速車マークを取り付け、路上走行中の追突事故を防止します。

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は10月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故
のもと 初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第7号 畑作物

発行日 令和8年9月24日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 大豆 子実肥大期を迎え、大豆の登熟が進んでいます。収穫作業に向けて、青立ち株や雑草の抜き取り、ほ場排水の徹底などを進めましょう。
- ◆ 小麦 小麦のは種適期を迎えていますが、降雨により過湿状態のほ場が多く見られます。ほ場の滞水や過湿が解消し、ほ場条件が整ってから、は種を行いましょう。

大豆

1 生育概況

多くのほ場で、子実肥大が順調に進んでいます。葉の黄化はやや遅れていますが、成熟期は概ね平年並みになると考えられます。

2 収穫作業の前に

(1) 台風対策

例年10月は台風の接近が多い時期ですので、今後の気象情報を確認し、排水口の点検、明きょの手直し等の排水対策を事前に実施するとともに、台風通過後は速やかにほ場を確認し、滞水の解消に努めてください。

(2) 雑草、青立ち株の抜き取り

雑草は収穫時に汚損粒の原因となりますので、早めに除草します。

シロザやアメリカセンダングサなどの大型雑草のほか、近年拡大傾向にある帰化アサガオ類やアレチウリなど、防除が難しい雑草が発生しているほ場では、雑草が種子をつける前に除草を行ってください。

また、青立ち株も汚損粒の原因となりますので、雑草と同様に抜き取ってください。

(3) コンバインの清掃

収穫作業の前に必ず清掃・点検を実施し、作業に支障が出ないか確認しておきます。

また、収穫作業中でもコンバインの清掃が必要となることがあるので、清掃のポイントを把握し、効率的に行えるようにしておきます。

(4) 乾燥・調製施設の確認

乾燥・調製施設を利用する場合には、その稼働計画について確認し、ほ場の様子を踏まえた上で、刈取りの順番、収穫機械やオペレーターの確保等、準備を進めておきます。

3 収穫

(1) 成熟期の判断

適期収穫には、成熟期を正確に判断することが重要です。莢を振ってカラカラ音がするようになったら、ほ場内の数カ所で実際に莢をむいて確認し、次の2点を満たした時期を成熟期と判断します。

ア ほ場のほとんどの株で、大部分の莢が熟色になっている

イ 莢の中の子実が乾燥子実の形になっている

成熟期を確認したら、表1を参考に収穫作業に入ります。

表 1 成熟期からコンバイン収穫適期までの日数

品種	成熟期からコンバイン収穫適期までの日数		収穫(適)期間
	早限	晩限	
ナンブシロメ	10 日後	20～25 日後	10～15 日
シュウリュウ	10 日後	20 日後	10 日
リュウホウ	10 日後	20 日後	10 日
リョウユウ	10 日後	20 日後	10 日

※成熟後、「リュウホウ」はしわ粒が発生しやすく、「シュウリュウ」、「リョウユウ」はやや裂莢しやすいので収穫適期になったら速やかに収穫します。

(2) コンバイン収穫のポイント

ア 収穫時の茎水分は 50%以下

茎水分が 50%を超えると、こぎ胴で茎がもまれて茎汁が発生し、汚損粒の原因となります。このため、青立ちした株は必ず抜き取ってください。茎水分 50%以下の目安は、分枝が手でポキポキと折れるときです。

イ 収穫時の子実水分は 18%以下

収穫時の子実水分は 18%以下を目標とし、高くとも 22%以下で収穫します。なお、子実水分が 20%以上の場合は、つぶれ粒を主体とする損傷粒が多くなり、15%以下の場合は、裂傷や割れ豆などが多くなる傾向があります。

ウ 収穫の時間帯は茎葉がよく乾いた頃

晴れた日の場合、午前 10 時過ぎ～午後 5 時頃までが目安です。茎水分が高いため朝夕は避けてください。

エ 収穫中のコンバイン清掃

土をかみ込んだ時は、ただちに作業を中断し、刈取り部の清掃を行います。土をかみ込んだ場合、汚損粒の原因となることがあります。

4 乾燥

(1) 乾燥

子実水分が高いものを急速に乾燥させると、裂皮粒やしわ粒発生の原因となります。子実水分を均一に低下させるよう、子実水分18%までは通風による予備乾燥（毎時乾減率0.5%程度）を行います。

(2) 被害粒発生のしくみ

被害粒のうち、裂皮粒（写真 1）は、収穫前に、大豆の生理的な要因で種皮が部分的に裂けて生じるもの（例：莢数不足あるいは刈遅れによる過熟）と、高温通風など乾燥調製時の急激な乾燥によって生じるものに大別されます。

しわ粒は、子実のへその反対側の子葉組織と種皮がギザギザになる「ちりめんじわ」（写真 2）と、種皮が吸湿により亀甲状に隆起する「亀甲じわ」（写真 3）に大別されます。

「ちりめんじわ」は主に、生育後半の地力の減耗や窒素吸収量の低下により発生するため、この時期の栄養状態の改善が対策となります。

「亀甲じわ」は子実形成から収穫期前後までの乾燥・吸湿の過程で、皮と子実の収縮・伸長の繰り返しが原因で生じますので、刈遅れを避けることが対策につながります。



写真1 裂皮粒（皮切れ粒） 写真2 しわ粒（ちりめんじわ） 写真3 しわ粒（亀甲じわ）

5 その他

(1) 紫斑病対策

成熟期以降、刈取りが遅れると紫斑粒が増加しますので、刈遅れを避けることが重要です。

小麦

本年は、降雨が続いているため、は種条件が整っていないほ場が多く見られます。過湿状態のほ場に、は種すると、出芽不良となり収量低下の原因となります。滞水や過湿が解消し、ほ場条件が整ってから、は種を行いましょう。

1 は種適期

は種期が遅くなると、年内に確保できる茎数が少なく、穂数不足による減収や、根張りが少ないため、凍上害にあうことが多くなります。

小麦も稲と同様に、主茎の葉齢によって発生する分けつ数が決まっており、越冬前の主茎葉齢は4葉以上、分けつは1～2本を確保することを目標にします。地帯別のは種適期を表2にまとめました。適期を逃さずは種作業を行い、越冬前に生育量を確保してください。

表2 県内の地帯別は種適期

地 帯	は種期(月日)	
	早限	晩限
高標高地	9月15日	9月25日
県北部	9月15日	9月30日
県中部及び沿岸北部	9月20日	10月5日
県南部(沿岸南部)	9月25日	10月20日

ナンプコムギで発生しやすい縞萎縮病は、は種後30～40日間の気温が高く、降水量が多いと翌春の発病程度が高まります。このため、ナンプコムギをやむを得ず連作する場合、被害軽減のため、できるだけは種適期内の遅い時期には種してください。この場合、茎数確保のためは種量を標準の3割増しとします。ただし、適期を過ぎたは種は根張りが劣り、湿害や干ばつ害を受けやすくなりますので注意してください。

2 もしも適期を逃したら・・・は種時期が遅れたときの考え方

- (1) は種適期を守るのが基本ですが、ほ場条件が悪い場合、無理には種しても出芽不良を招きますので、は種作業を見合わせます。
- (2) 適期が過ぎてしまった場合は、各地帯のは種晩限から1週間遅れるごとに、は種量を1割ずつ増やし、目標出芽本数を確保できるよう努めます(表3)。

表3 品種別のは種量と目標出芽本数

品種名	は種量 (kg/10a)		目標出芽本数 (本/m ²)
	ドリルまき	全面全層まき	
ナンプコムギ	4～6	5～8	70～110
ゆきちから	6～8	8～10	120～160
銀河のちから	6～8	8～10	120～160
ナンプキラリ	6～8	8～10	110～150

3 基肥

麦類の施肥は、追肥の占める割合が高く、基肥は越冬前の生育量を確保するために施用します。

標準的な施肥量を表4に示していますが、土壤改良目標値を満たしたほ場での施肥管理は、「補給型施肥基準」を適用することができます。補給型施肥

とは、「ほ場からの収穫物による肥料分の持ち出し量」と浸透水による「土壌養分の溶脱量」を施肥によって補給する、という考え方を基に作られた施肥基準です。この施肥基準では、堆肥と化学肥料を区別することなく、含まれる肥料成分の合計で施肥設計しますので、堆肥の利用で肥料費を抑えることも可能です。詳しくは最寄りの農業改良普及センターにお問い合わせください。

表4 麦類の標準的な基肥量（成分 kg/10a）

窒素 (全域)	リン酸		カリ (全域)
	中南部 転換畑	中北部 普通畑	
4～6	10～15	15～20	10～12

※水田から転換して初年目、2年目の「ゆきちから」の基肥は、茎数確保のため窒素 6 kg/10a とする。

4 雑草防除

は種後は、必ず土壌処理剤を散布します。もし、降雨などでは種直後に散布できなかった場合は、小麦の出芽後でも使用できる除草剤がありますので、ほ場が乾いたら早めに散布を行ってください。

5 排水対策

ほ場内の明きよは、は種後に施工することも可能です。小麦を部分的に踏圧・損傷する場合がありますが、排水改善による効果が大きく、収量への影響はほとんどありません。



写真4 ほ場内小明きよの施工例

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら．．．
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は10月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故
のもと 初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第7号 野菜

発行日 令和8年9月24日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 台風対策 排水対策と施設の保守点検を万全にしましょう。
- ◆ 果菜類（施設） トマトではかん水回数の調整などによる裂果防止、早朝換気によるゴーストスポットの発生防止、トマトキバガ対策の徹底に努めましょう。
- ◆ 果菜類（露地） キュウリホモプシス根腐病など重要病害の発生状況の確認（残さ診断）や振返りを行い、次年度へ向けた対策を検討しましょう。
- ◆ 葉茎菜類 雨よけほうれんそうは適切な温度管理と病虫害防除を徹底しましょう。
- ◆ 冬春野菜 寒じめほうれんそうは大雪への備えを万全にし、適期は種と適切な温度管理を徹底しましょう。促成アスパラガスは低温遭遇時間を目安にして根株の掘り取り時期を決めましょう。

1 生育概況

(1) 果菜類（施設）

- ・ きゅうり早熟長期作型は収穫終盤です。抑制作型の生育は概ね順調です。病虫害は、褐斑病、ウリノメイガが発生しています。
- ・ トマトは、雨よけ栽培の摘心が行われています。生育は概ね順調ですが、一部地域では日照不足により停滞気味です。病虫害は、灰色かび病やコナジラミ類、オオタバコガ、トマトキバガの発生がみられます。
- ・ ピーマンの生育は概ね順調ですが、一部地域では日照不足等により生育は停滞気味です。一部地域で赤果の発生がみられています。病虫害では、斑点病やアブラムシ類、アザミウマ類、タバコガ類の発生が継続しています。

(2) 果菜類（露地）

- ・ きゅうりは、草勢低下により曲がり果などがみられています。病虫害では、べと病、炭疽病、褐斑病やウリノメイガ、オオタバコガが発生しているほか、一部地域でハダニ類の発生が見られます。
- ・ ピーマンの生育は概ね順調ですが、一部では日照不足や気温の低下により停滞気味となっています。一部でひび果、肥大遅れによる赤果の発生が見られています。病虫害では、斑点病、炭疽病、タバコガ類の発生がみられます。

(3) 葉茎菜類

- ・ 雨よけほうれんそうの生育は、曇雨天の影響により、細めの株となっています。病虫害は、シロオビノメイガ、一部で萎凋病の発生がみられます。
- ・ 高冷地キャベツは降雨により生育が進み概ね順調ですが、収穫作業にやや遅れが見られます。高冷地レタスは概ね順調な生育です。病虫害は、キャベツはべと病、黒腐病、黒斑病は少発生、

オオタバコガ、ウワバ類が発生しています。レタスでは褐斑病、オオタバコガの発生がみられます。

- ・ ねぎは概ね順調な生育ですが、葉先枯れや天候不順による収穫遅れが一部で見られます。病害虫は、葉枯病、べと病、黒斑病、ネギアザミウマ、ネギハモグリバエの発生が見られます。

2 技術対策

(1) 台風対策

例年 10 月は台風の発生が多い時期になります。気象情報を確認し、状況に応じて**排水対策、施設の保守点検**など、事前事後の対策を徹底してください。具体的な技術対策は以下のとおりです。

- ・ ほ場周囲の**明きよの点検**と**排水口への接続状況を確認**し、スムーズな排水に努めます。
- ・ **ハウスバンドの締め直し**や**ハウスビニールの破れ部分の補修**を行います。
- ・ 収穫可能な果実は、**台風前に収穫**するようにします。
- ・ 被害後は、**被害茎葉や被害果を除去**し、**予防的に防除**を行います。

(2) 果菜類（施設）の管理

ア きゅうり

- ・ 早熟作型では、栽培が終盤となるため生育状況や収穫終了時期に応じた管理を行います。
- ・ 抑制作型では、日照時間が短くなるとともに気温の低下に伴う結露などにより病害の発生が懸念されることから、**ハウスを閉める時間が長くないよう**注意します。

側枝は、2～3 節で摘芯し、枝数や葉数を確保します（写真 1）。



写真 1 抑制きゅうりの整枝管理（例）

イ トマト

これからの時期は、既に着果している果実を確実に出荷に結び付けるために、裂果や病害の発生を防ぐことが重要です。

また、トマトキバガの発生が増加するため対策を徹底してください。

- ・ 温度管理は、急激な気温の低下及び 14℃以下にならないよう**夜間の保温**を行います。循環扇などを利用し、ハウス内の空気を攪拌して病害の発生を抑えます。
- ・ かん水は、少量多回数を基本とし、**早朝の開始時間を遅らせる**とともに、気温や生育量に応じて**終了時間を早めて**根域の水分過剰を防ぎ、急激な吸水による裂果を防ぎます。
- ・ **早朝にハウスサイドを開ける**ことで日の出後の急激な気温上昇による**果実表面への結露を防止**します。果実表面の結露は、ゴーストスポットや裂果の発生を助長します。
- ・ 病害では、**葉かび病**や**灰色かび病**が発生しやすくなるので、防除を徹底してください。
- ・ トマトキバガ対策は、発生が疑われる場合は、耕種的防除や農薬散布による効果的な対策を実施してください。

ウ ピーマン

気温の低下とともに、果実の肥大が緩慢となりますので、**夜間の保温**による生育温度の確保に努めてください。

- ・ **最低気温が 16℃以下にならないよう**に夜間の保温を行います。
- ・ 出荷規格に適さない果実は、早めに摘除し、収穫果の肥大を促します。
- ・ 湿度上昇による病害発生を低減するために、**日中は少しでも換気**を行いハウス内の空気を動かしします。

- ・ 防除は、斑点病、灰色かび病、タバコガ類を中心に行います。

(3) 果菜類（露地）の管理

ア きゅうり

草勢の維持と病虫害対策の徹底により収穫期間の延長を図ります。

- ・ 強い摘芯は控え、アーチから飛び出した弱い芯を指先で摘む程度に行います。
- ・ 摘葉は病葉・古葉・黄化葉などを中心に行い、追肥は、栽培終了時期を見越して行います。
- ・ 防除は、農薬の使用回数（成分の総使用回数を含む）に注意し、薬剤を選択してください。
- ・ 収穫残さに付着している病原菌は、翌年の発生源となるので、栽培終了後は速やかにほ場外へ持ち出し、できる限りほ場に残さないように片付け、次年度に向け資材消毒を実施してください。
- ・ 栽培終了後、根をそのままにすると、キュウリホモプシス根腐病が増える可能性があるため、きゅうりの根は速やかに抜き取り、キュウリホモプシス根腐病（写真2）の発生の有無を確認してください。
- ・ 疑わしい症状が見られた場合や、次年度の作付けに不安がある場合は、最寄りの農業改良普及センターなどに連絡し、残さ診断を受けてください。



写真2 ホモプシス根腐病による根の状態
（左上：200倍に拡大 右：黒変症状）

イ ピーマン

この時期は、病害や腐敗果、赤果の発生が増加するおそれがあるので、**防除や果実の選別を徹底**してください。

- ・ 斑点病、斑点細菌病の防除を中心として、降雨前後に薬剤散布を行い、発生低減を図ります。
- ・ 腐敗の原因になるため、被害果（タバコガ類など）や傷果の選別を徹底します。
- ・ 赤果の混入防止のため、果実の色をしっかりと確認します（写真3）。
- ・ 果実表面に水分がないよう、出荷時の果実は乾いた状態とします。



写真3 市場での赤果の混入状況

(4) 葉茎菜類の管理

ア 雨よけほうれんそう

- ・ 年内収穫に向け、もう1作は種することを検討します。低温伸長性の良い品種を選択し、ハウスのこまめな開閉などによる温度管理を適切に行います。

- ・ ハウスを閉める時間が長くなると、**べと病**の発生が多くなります。べと病抵抗性品種であっても、日中は換気に努めるとともに、予防防除を行ってください。
- ・ **ハウレンソウケナガコナダニ**の被害が多くなる時期です。今年被害があったほ場では、土壌処理剤と茎葉散布剤を併用します。茎葉散布剤は薬液が**芯葉**まで届くように丁寧に散布してください。
- ・ シロオビノメイガの発生がみられます。幼虫は、初め**芯葉の隙間**に入り込んで見つけにくいので、注意して観察し、防除が遅れないようにしてください(写真4)。



写真4 シロオビノメイガによる食害

イ キャベツ・レタス

- ・ 県北高冷地の収穫は終盤です。病害により収穫できなかった株、使い終わったマルチを**適切に処理**します。

ウ ねぎ

台風などの降雨によりほ場作業が出来ない日も多くなるため、**ゆとりのある作業計画**により適期収穫に努めてください。

- ・ 10月収穫の**最終培土**は、**収穫の30日前**を目安に、軟白部の伸長肥大を確認しながら行います。
- ・ 薬剤防除は、例年の防除体系に加え、発生が多い**黒斑病**、**葉枯病**も考慮して行います。また、農薬散布は収穫前日数に注意して適正に行います。
- ・ 次年度に向け、収穫終了ほ場から土壌診断や堆肥の施用を行います。

(5) 冬春野菜の管理

ア 寒じめほうれんそう

- ・ 冬期間の大雪によるパイプハウスの倒壊を防止するため、寒じめほうれんそうを作付けするハウスは補強用支柱や筋交いを設置するなどの**補強対策**を講じます。また、作付けするハウスは1棟おきにして、作付けしないハウスはビニールを外し、**除雪しやすい環境**を整えます。
- ・ ハウス栽培では9月下旬～10月中旬がは種時期です。地域により気象条件が異なるので、品種特性に合わせて**適期には種**します。
- ・ は種後の温度管理は、過剰に保温すると生育が進みすぎ、温度が低すぎると生育が大幅に遅れます。本県の寒じめほうれんそうの収穫期間は12月～翌年2月となるので、**生育ステージに応じた適切な温度管理**を行ってください。

イ 促成アスパラガス

- ・ 気温の低下とともに、**地下部への養分転流**が進む時期です。台風による倒伏などで、茎葉が傷まないよう管理します。
- ・ 根株の極端な早掘りは伏せ込み後の収量低下につながるので、**低温遭遇時間**（5℃以下の積算遭遇時間90時間以上）を目安に、掘り取り時期を決定します。

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は10月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故
のもと 初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第7号 花き

発行日 令和8年9月24日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 共 通 台風・大雨に備え、ネットと支柱を点検、補強しましょう。
- ◆ りんどう 花腐菌核病や黒斑病、オオタバコガ、アブラムシ類等の防除を徹底しましょう。
定植ほ場や収穫後ほ場も病害虫防除を継続しましょう。
- ◆ 小 ぎ く 収穫後管理を適切に行い、健全な伏せ込み苗・株を確保しましょう。

りんどう

1 生育概況

晩生品種の開花は、8月下旬から始まり、概ね彼岸需要期に出荷となりました。一部、高温による開花遅延や花卉の着色不良がみられましたが、昨年より少なくなっています。

病害虫は、黒斑病や葉枯病、オオタバコガ、リンドウホソハマキが継続して発生しています。また、花腐菌核病の子実体（きのこ）の発生が始まり防除時期となっています。

2 台風・大雨対策

例年 10 月は台風の発生が多い時期となりますので、今後とも気象情報を確認し状況に応じて排水対策、施設の保守点検など事前事後対策を徹底してください。技術対策の詳細については、9月17日発行の「号外 台風対策」を参照してください。

3 栽培管理

(1) 残花処理

収穫が終わったほ場の花蕾が着いている部分の茎を折り取ります。この作業は、花腐菌核病やオオタバコガ、アブラムシ類、アザミウマ類の防除に特に有効です。

(2) 茎の除去（茎の刈り払い）

刃物を使って茎の刈り払い作業を行う場合は、ウイルス病の感染を防ぐため、完全に枯れてから行います。極晩生品種では、冬まで株元の茎が枯れずに残る場合がありますので、その際は枯れた部分まで刈り払い、翌春に残った茎を除去します。

手作業で行う場合も、枯れていない茎を無理やり株元から折り取ると株を傷める可能性がありますので、折り取りやすい位置で除去し、残茎は翌春に除去します。

また、除去した茎は病害虫の越冬場所となることがあるため、ほ場内に放置せず、必ずほ場外で処分します。特に、ハダニ類やリンドウホソハマキの発生が多かったほ場では、枯れ茎の処分を徹底します。

(3) 除草

秋の除草が翌春の雑草の発生程度に大きく影響します。ほ場周囲も含めて除草を行います。

4 病害虫防除

今後も注意が必要な病害虫は、病害では花腐菌核病、黒斑病、葉枯病、害虫ではオオタバコガ、アブラムシ類となりますので継続して防除を行います。

花腐菌核病は、胞子を飛散させる子実体(きのこ)の発生が始まり、**防除開始時期**となっています。胞子飛散時期に降雨があると花蕾に感染します。開花している晩生品種やこれから開花する極晩生品種では薬剤防除を行います。また、発病した部位を放置すると、菌核が形成され地面に落ち、来年の発生源になります。**発病茎は開花期間中に折り取り、ほ場外に持出し処分**します。

アブラムシ類は、気温の低下に伴い花から越冬芽周辺に移動してきますので、薬剤散布は株元にもしっかりと薬液がかかるようにします。

併せて、収穫が終了したほ場や今年新植したほ場の防除も継続して行います。



写真1 株元に形成された子実体(きのこ)
(傘の直径は大きいもので5mm程度)



写真2 越冬芽周辺に寄生したアブラムシ類

小ぎく

1 生育概況

9月咲き品種は、昨年より開花が早まった地域が多く、概ね彼岸需要期に出荷となりました。

病害虫では、白さび病の発生が増えています。また、オオタバコガ、ハダニ類、半身萎凋病、黒斑病などの発生がみられています。

2 台風対策

りんどうと同様に事前・事後対策を行います。

3 栽培管理

(1) 収穫後管理

花遅伏せ込みに利用する株は、収穫後に地上部が伸びすぎないように地際5～10cmのところでは台刈りをします。その後、速効性の化成肥料を窒素成分量で3kg/10a程度施用します。**マルチ栽培では、台刈り後にマルチを除去して土寄せし**、生育を促すのが基本ですが、除草労力を考慮して決めます。

なお、かき芽で伏せ込む場合は、台刈り後に発生した**側枝に土寄せ**をして側枝の発根を促します。

(2) かき芽苗伏せ込み

株元から発生した側芽（かき芽）を利用して伏せ込む場合は、冬至芽や株伏せ込みよりも早く作業を行います。元株から発根したかき芽を採りますが、株に病虫害の発生がないことを必ず確認します。特に、本畑で白さび病またはべと病が発生した場合は、細心の注意を払います。準備するかき芽苗の本数は、定植予定株数の2～3割とします。



写真3 株からかき取ったかき芽苗

(3) 伏せ込み床の準備

かき芽苗を伏せ込む場合、作業が遅くなるほど活着が遅れますので、速やかに伏せ込み床を準備します。排水の悪いハウスでは、平畝ではなく10～15cm程度の高畝とします。

なお、長年の伏せ込み床使用によって肥料成分が土壤中に過剰蓄積（塩類集積）し、根が障害を起こして生育不良となる事例がみられます。このような状況が確認される場合は、積極的に土壌診断を受診して処方箋に基づいた適正施肥を行います。



写真4 塩類集積による伏せ込み株の生育不良

(4) 伏せ込み床の準備

この時期、収穫後の株元から伸長した茎が再び開花して、そこにアブラムシ類やアザミウマ類が多発する事例がみられます。伏せ込み作業までに期間がある場合は、過繁茂対策を兼ねて地際から20cm程度を残し着花部分を中心に台刈りします。刈り取った茎葉は、ほ場内に放置せず、必ずほ場外で処分します。

4 病虫害防除

伏せ込み株からハウス内に病虫害を持ち込まないように、収穫終了後も伏せ込みまでは継続して白さび病、アブラムシ類、アザミウマ類などの防除を実施します。

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は10月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故
のもと 初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第7号 果樹

発行日 令和8年9月24日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ りんご 向こう1か月の気温も高い予報であることから、過度に着色を期待せず食味を重視し、すぐりもぎを徹底しましょう。なお、10月は台風が襲来しやすいため、気象情報に注意し、事前事後対策を徹底します。

1 生育概況

9月1日時点の生育診断ほの果実生育（横径、県平均）は、「ジョナゴールド」が平年比101%、前年比105%、「ふじ」が平年比108%、前年比109%です（表1）。開花が平年より8日程度早く、6月以降8月まで平年並以上の降水量があったことから、現時点の生育は平年及び前年をやや上回っています。

なお、向こう1か月の平均気温は平年より高い見通しであり（9/17、仙台管区气象台発表）、果実は、果肉先行となる可能性があります。収穫に向けては、引き続き、最新の気象情報と各農業改良普及センターやJA等が提示する情報を確認し、適期収穫に努めるとともに、過度に着色を期待せず食味を重視し、採り遅れないようにしてください。

表1 生育診断ほにおける果実生育（横径）状況（9月1日現在）

単位:mm

市町村	ジョナゴールド					ふじ				
	本年 (R8)	平年	比	前年 (R7)	比	本年 (R8)	平年	比	前年 (R7)	比
岩手県農業研究センター	86.0	84.8	101%	85.8	100%	78.5	78.7	100%	77.4	101%
盛岡市三ツ割	84.3	83.1	101%	79.7	106%	81.2	76.9	106%	70.7	115%
花巻市石鳥谷※2	83.7	83.5	100%	80.1	104%	82.8	76.1	109%	76.4	108%
奥州市江刺樽輪	76.6	79.4	96%	69.3	111%	80.7	75.9	106%	68.5	118%
一関市狐禅寺※3	85.0	83.5	102%	82.3	103%	79.4	75.6	105%	75.9	105%
陸前高田市米崎	82.7	83.3	99%	82.5	100%	88.7	77.1	115%	78.8	113%
宮古市崎山	-	-	-	-	-	88.7	79.7	111%	84.3	105%
二戸市金田一	87.3	83.8	104%	80.9	108%	83.4	79.2	105%	81.2	103%
県平均値※1(参考)	83.3	82.8	101%	79.1	105%	83.6	77.2	108%	76.5	109%

※1 県平均値に農研センターのデータは含まれていない。

※2 R4年度より定点が変更となったため、平年値は花巻市上根子(前定点)の値を使用。

※3 R2年度より定点が変更となったため、平年値は一関市花泉(前定点)の値を使用。

※4 平年値は昭和60年～令和7年の平均
(地点変更時はその年次からの平均)

2 栽培管理のポイント

(1) 中生種の管理

ア 「ジョナゴールド」などの着色管理は、1回目の軽い葉摘み終了後、陽光面の着色が進んでから、葉かげや枝かげをつくらないように収穫まで玉回しを2～3回行います。玉回しと同時に適当な強さに葉を摘みます。

イ 着色の適温は10～20℃です。気温の高い日が続くと、必要以上に葉摘みをしていても着色は進まないため、過度の葉摘みとならないよう注意します。

ウ 「ジョナゴールド」は着色が不揃いになりやすいので、すぐりもぎが必要です。そのため、

着色の進みに応じて葉摘みを行い、玉まわしは、すぐりもぎの時にも行う等、回数をできるだけ多くすることが重要です。

エ 「ジョナゴールド」は収穫が遅れると果肉の軟化、果皮の油上りが発生して、販売上不利になりますので、適期収穫を心がけてください（表2）。

オ 夏秋期が高温となる年は、収穫前落果が助長されることがあります。過去に収穫前落果が発生した品種は、落果防止剤の散布を検討し、品種・園地ごとの発生実態を把握したうえで、散布の可否を判断します。

なお、落果防止剤の散布により、収穫期の前進化や果実硬度の低下が想定されるため、使用の判断にあたっては、集出荷・販売の対応も併せて検討してください。

表2 中生・晩生種の収穫期における果実品質の目安

品種	硬度 (lbs)	糖度 (%)	ヨード でんぶん 反応指数	備考
ジョナゴールド	13以上	13以上	2～3	
王 林	14以上	14以上	-	
シナノゴールド	15程度	15以上	1以上 1以下	越年販売 年内販売
ふ じ	14以上	14以上	1～2	

(2) 「ふじ」の管理

ア 「ふじ」は、着色期間が 30～40 日間と長いため、陽光面が着色してきた頃（9 月下～10 月上旬）と、10 月中～下旬の 2 回に分けて葉摘みを行います。1 回目の葉摘みは、果実に密着する葉を摘む程度とし、2 回目は適当な強さまで葉を摘み、陽光面の着色が進んできたら葉かげや枝かげをつくらぬよう玉回しを行います。

イ 過度の葉摘みは、葉が少なくなると果実の着色やみつ入りが劣り、翌年の花芽の充実が悪くなるなどマイナスの影響が出るので注意してください（表3）。

表3 ふじの摘葉が果実品質に及ぼす影響

（青森りんご試 S61）

処理区分	果周増加量 (mm)	糖度 (%)	蜜の発生 (%)	表面色	翌年の開花率 (%)
全葉の摘葉	0.74	13.6	0	3	25.0
新梢葉摘葉	3.60	14.5	31	3	58.4
果そう葉摘葉	6.85	14.9	77	4	65.1
無摘葉	7.40	14.9	86	4	66.6

（摘要）摘葉処理は10月3日～10日に行った。果周増加は10月11日～11月11日までの分。

(3) 「シナノゴールド」の収穫

ア 年内販売の場合は、表2の収穫時期を目安に、果面にワックスが感じられるようになったら収穫してください。デンプン指数の目安は1以下です。

イ 越年販売の場合は、デンプンが若干残っている状態で収穫することで、収穫後約4ヶ月の貯蔵が可能となります。ただし、早く収穫するとやけ病が多くなり、遅く収穫すると貯蔵して4～5ヶ月ころから内部褐変が見られる場合がありますので、注意してください。

(4) お礼肥の施用

樹の衰弱がみられる場合には、早生・中生種は9月下旬以降、晩生種は10月中下旬以降からそれぞれ落葉までに施肥を実施します。施肥量は、成木で多くても10a当たり窒素成分5kgを目安としてください。

(5) 病虫害防除

黒星病や褐斑病の発病葉は、翌年の伝染源となるため、葉摘み作業等の際に見つけ次第摘み取り、黒星病の罹病果も含め土中に埋没させるか焼却するなどして処分してください。また、炭疽病や輪紋病など果実腐敗性の病害についても、発病した果実は樹上に残さず、見つけ次第処分します。

3 気象災害対策

(1) 台風対策

強風で倒木が発生しないよう、防風ネットの設置、支柱との結束を確認してください。また、気象情報に注意し、場合によっては台風の接近前に収穫可能な品種は収穫を進めるなど、被害を最小限にする対策を講じます。

なお、詳細は、令和8年9月17日発行の「農作物技術情報特別号 台風対策」も参照してください。

(2) 湿害対策

台風に伴う大雨や秋の長雨など、園地内の過湿は、裂果や根部の障害による樹勢衰弱の要因となります。園地内に水が停滞しないよう、溝を切るなど排水対策を実施します。

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は10月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故
のもと 初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第7号 畜産

発行日 令和8年9月24日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 飼料用とうもろこし 収穫最盛期を迎えています。切断長、踏圧密度に留意して、安全に収穫調製を行いましょう。
- ◆ 牧 草 予乾が十分でなく、水分30～40%でロール成形する場合は、速やかにラップしてサイレージとし、自然発火を予防しましょう。
- ◆ 地域資源の活用 堆肥交換などにより稲わらを確保し、粗飼料や敷料として活用しましょう。
- ◆ 大 家 畜 牛の蹄を観察して、体調管理に役立てましょう。
夜は気温が13℃以下に低下するので、哺乳子牛の寒冷対策を始めましょう。

1 飼料用とうもろこし

(1) 生育状況

6月は最低気温がやや低く推移したため生育遅延が心配されましたが、雄穂の抽出はやや早い地域が多く、子実、茎葉の生育も平年並みとなっています。早い地域では8月下旬から収穫が始まっていますが、9月上旬の断続的な降雨により子実の登熟がやや緩慢となっています。

(2) 収穫の留意点

子実が黄熟期に達し水分が50%程度、全体の水分が70%程度になると収穫適期です。収穫時の切断長は10mm未満とし、踏圧密度と家畜の消化率を高めるようにします。

コーンクラッシャによる破碎処理を行う場合は、切断長を19mm、ローラーの間隙を黄熟期5mm（黄熟後期以降は2～3mm）とします。

過度の刈り遅れやすす紋病等の病害発生、霜にあたったとうもろこしは、水分含量が低く、貯蔵期間中のカビの発生やサイレージ開封後の好気的変敗が起こりやすくなります。このような場合は、乳酸発酵の促進には乳酸菌製剤、酵素剤、糖蜜等を、不良発酵の抑制にはギ酸等を添加剤として使用し、良質発酵に努めます。

強風等により倒伏したほ場では、作業機の走行速度を遅くし、倒れた方向に対して斜め後ろから進入します。また、高刈りして土壌の混入を避け、十分な踏圧と早期密封に努め、発酵品質の低下を防

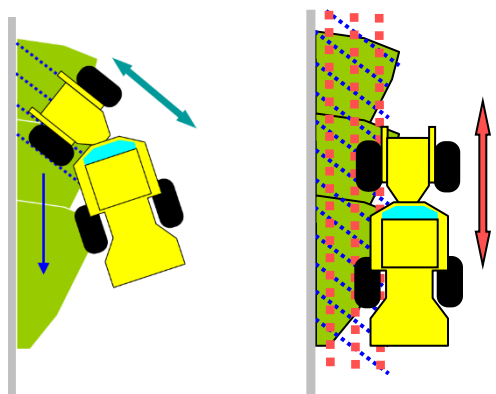


図1 壁に対して斜めに踏圧、

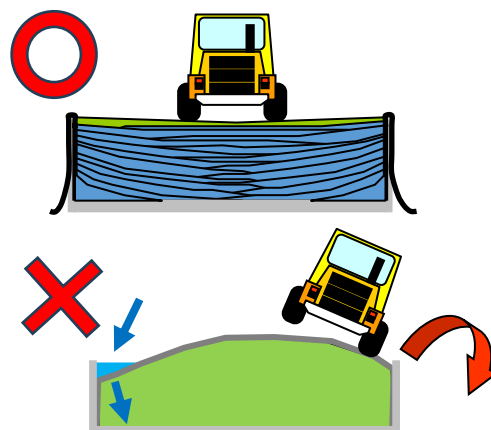


図2 詰込みはサイロの壁の高さまでとする
(かまぼこ型に盛り上げない)

ぎます。

バンカーサイロの場合は、**側壁側の踏圧を重点**に行います。壁に向かって斜めに走行した後、壁側の前輪で壁に平行に踏圧します（図1）。**詰込み量は壁の高さまで**とします。かまぼこ型に盛り上げると、壁と材料の間に雨水が侵入しやすいほか、作業機の転倒事故につながります（図2）。

2 牧草

（1）生育状況

2番草の収穫は、降雨の影響によりやや刈遅れとなりましたが概ね8月に終了し、3番草（または4番草）の収穫は、最盛期を迎えています。令和7年のような高温、乾燥は回避され、夏枯れ症状は顕著ではありませんが、収量は平年並み～やや不良の見込みです。

（2）収穫調製

晴天が続かない場合は、無理に乾草とせず**サイレージ調製**とします。水分が高い乾草（水分含量20%以上）は、ロール成形後、速やかにラップします。

牧草の水分が**30～40%となる場合は**、牧草の呼吸熱と微生物による発酵熱によりロールの内部温度が上がり自然発火しやすい状態となるため、**ファイヤーゾーン**と言われます。収穫から発火までの期間が30日前後の事例が多く、発火しなくても炭化や変性（くん炭化）する場合があります。ロール牧草が放熱しやすいよう**通気の良い状態で保存する、ロールの温度を測定する等**の対策を行います。

（3）最終刈取後の雑草防除

ギンギンやガガイモ、ワルナスビ等の発生が多かった草地では、来春の発生抑制のため、広葉雑草に効果のある除草剤の散布を検討します。牧草の播種当年には使用しない、最終刈取後30日以内に散布する等、製品のラベルをよく読んで使用してください。

3 地域資源の活用

（1）堆肥交換等による稲わら、麦稈等の確保

稲わらは、**粗飼料**として給与できます（表1）。また、稲わらや小麦の麦稈は、分娩時や冬期の子牛の敷料として利用価値の高い地域資源です。耕種農家と連携し堆肥交換などにより稲わら、麦稈を収集し活用します。

肝蛭予防のため、稲わらは**4か月以上貯蔵**してから給与するか**サイレージ化**する、糞尿は十分に発酵させた堆肥にする、感染した牛は**駆虫薬で駆虫**する等を行います。

稲わらを収集する際は、**泥の混入を少なくし、よく乾いた状態で梱包**します。

【泥の混入を防止する方法】

- ・ ぬかるみの無い乾いたほ場で、晴れた日に稲刈りする
- ・ 稲は根元から15cm以上の高さで刈り取る
- ・ コンバインで米を収穫する際、わらを切断しない
- ・ 刈り落としたわらは雨に当てずに梱包する、等



表 1 黒毛和種雌牛維持期（体重 500kg）への給与例

		養分要求量(kg)	稲わら無し	稲わら有り
給 与 量 (kg)	イネ科乾草		6	4.5
	繁殖牛用配合飼料		1	1
	稲わら		0	2
充 足 率 (%)	DM	6.5	88.9%	94.9%
	TDN	3.3	104.7%	104.7%
	CP	0.5	108.0%	103.0%

4 牛の飼養管理

秋になり、夏バテの症状が深刻になる場合があります。牛群をよく観察し、疾病の予兆を早めに見つけ適切に処置します。

気温の上がる日中は暑熱対策を継続し、熱が体内に籠らないように送風や換気を徹底します。

(1) ルーメンアシドーシスに注意

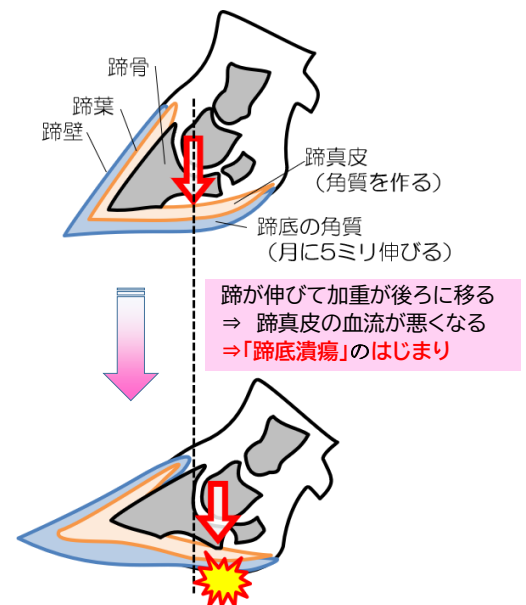
蹄冠部に赤みがある場合は、アシドーシス（過剰な穀類給与、繊維不足によりルーメンが酸性化）を発症している可能性があるため、管理を見直します。ルーメン pH が下がると、微生物が死滅する際に発生したエンドトキシンにより角質の形成が減少して蹄壁にスジが現れ、蹄葉炎を発症するといわれています。

慢性的なルーメンアシドーシスの回避のため、飲水量の確保、良質粗飼料の給与、デンプン濃度の調整、重曹、ビタミン類の補強などを再確認します。

(2) 定期的な削蹄

牛の蹄は月に 5mm 伸びると言われます。蹄が伸びすぎると加重位置が変わり、血流が悪化して蹄の角質がもろくなり、細菌感染を引き起こします。その後、蹄骨などの深い部分にまで感染が広がり蹄底潰瘍となります（図 3）。

年に 1～2 回、乾乳期や泌乳ピーク後をめどに削蹄を行います。起立した姿勢、歩行時の状態をよく観察し、問題がある場合は、早めに獣医師や削蹄師に処置を依頼します。



4 子牛の管理

9 月になると夜温は 13℃を下回るようになり、子牛は寒い夜を過ごしています。哺乳期の子牛は、体熱をうまく作れない時期なので、防寒対策を行い、子牛にとって快適な温度「13～25℃」の維持を目指します。

【子牛の防寒のポイント】

- ・ 腹冷え予防 寝てほしい所に、敷料（稲わら、オガクズ、乾牧草）をたっぷり敷く
糞尿はこまめに取り除き、牛体をぬらさない、バスマットを敷く（図4）
- ・ 防風 2方向（L字型）にコンパネなどで壁を作る
- ・ 換気 朝晩に換気を行い、新鮮な空気を取り入れる



バスマットが、床からの冷気を遮断



図4 防寒対策：バスマット敷設

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は10月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故
のもと 初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第7号 野生獣対策

発行日 令和8年9月24日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ クマ人身被害防止 引き続きクマへの最大限の注意をお願いします。
- ◆ ツキノワグマ対策 「よせつけない」「まもる」対策を徹底しましょう。
- ◆ 簡易電気柵の撤収 収穫後は速やかに撤収しましょう。

1 クマ人身被害防止

- ・ 秋は、冬眠に備えて栄養を蓄えるためドングリ、クリなどのエサを求めて活発に行動する時期になり、令和7年度は、10月が出没件数（図1）及び人身被害（図2）の最も多い月となっています。
- ・ クマ出没状況アプリ「Bears」（図3）などにより出没状況を確認するとともに、これまではクマの出没がない地域においても、最大限の注意をお願いします。

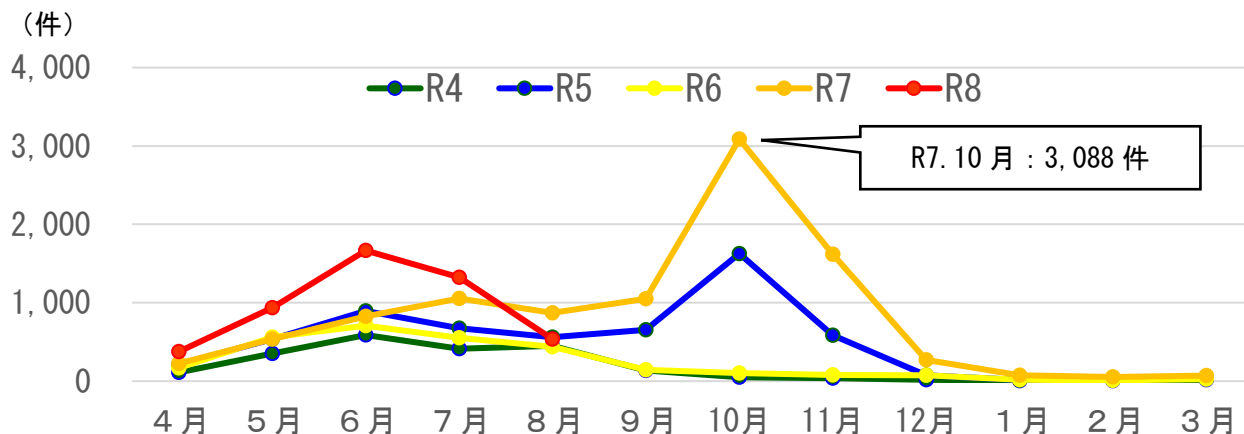


図1 クマの出没件数 (9/16 現在)

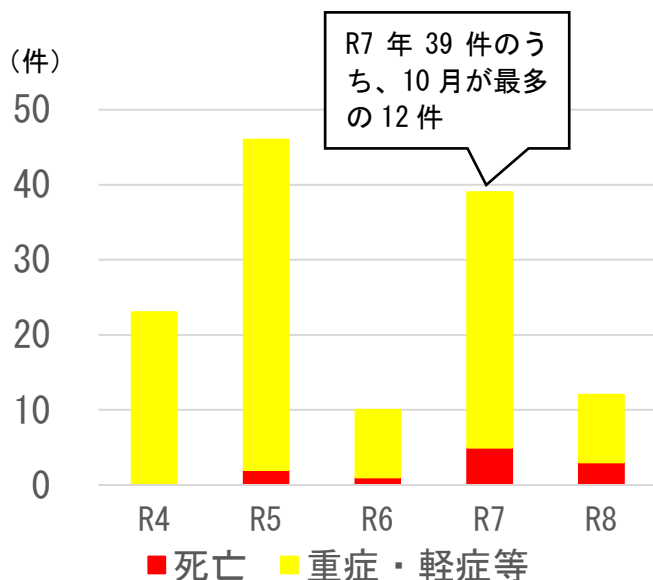


図2 クマによる人身被害 (8/29 時点)



図3 クマ出没情報アプリ「Bears」

こちらの2次元コードから登録できます！



2 ツキノワグマ対策

クマは、食べ物に執着する性質が強く、一度食べ物の味やにおいを覚えると繰り返し出没する傾向があります。これまで農作物等の被害を受けたことがあるほ場では、特に注意が必要です。

まずは自身で実施できる「生息環境管理（よせつけない）」、「侵入防止対策（まもる）」の対策を確認し、被害防止対策に努めましょう。

(1) 「生息環境管理（よせつけない）」

- ・ ①野生獣が隠れる藪などの刈払い、②カキやクリなどの放任果樹などの除去、③農作物の保管倉庫などへの施錠、④揮発性の化学成分を含むペンキなど適切な管理、などを徹底します([農作物技術情報第3号](#)参照)。
- ・ 藪などの刈払いについて、全てを刈り払うことが難しい場合は、獣道などの侵入経路を優先して刈り払うことも有効です。
- ・ また、放任果樹の除去について、一部の市町村では伐採費用を補助する制度を設けていますので、詳細はお住いの市町村にお問い合わせをお願いします。



写真1 藪からほ場への侵入力所

(2) 「侵入防止対策（まもる）」

- ・ 冬期の積雪があり、クマのほかにシカ、イノシシの被害もある本県の場合、現状では野生獣に直接痛みを与えることができる電気柵が最も有効な対策です。
- ・ 十分な効果を発揮するには、適切な維持・管理が重要になりますので、改めて以下のチェックポイントで管理状況を確認しましょう。

野生獣に負けないための10のポイント ～ 電気柵編 ～

No	☑	ポイント
1	☐	電圧は5,000～8000Vで通電している。 【不具合の原因と対策】 ・ ワイヤーの作物や雑草などへの接触 → 点検と是正 ・ アース棒の深さや本数不足 → アース棒は触っても電気を感じないように ・ パワーユニットの能力不足 → 距離に応じたパワーユニットを使用 ・ 支柱などによる漏電 → きちんと碍子を使いつつ、点検を ・ 電線の結び目などでスパーク発生 → 「パチパチ」と音が聞こえるのは異常
2	☐	24時間通電している ※ 夜間のみ、収穫期のみなどの通電は、通電していない時間帯に電気柵を安全と学習させるリスクがあるので常時通電させる
3	☐	ワイヤーは、獣種に応じた高さで設置している。
4	☐	ワイヤーを、緊張具を利用しピンと張っている。 ※ ピンと張ることで高さの間隔を保つとともに、野生獣が触れた際にワイヤーが鼻等に圧着しやすくなります。
5	☐	ワイヤーの下から潜り込まれないよう、地面の窪み等を埋めている。
6	☐	計画的に下草の除草を行っている。
7	☐	農作物を植えると同時に、又は植える前から電気柵を設置している。
8	☐	電気柵は定期的に点検している。
9	☐	近くに斜面がある場合、シカなどが飛び越えにくいよう柵の位置を調整している。
10	☐	感電事故防止のために、危険表示板を設置している。

- 電気柵の稼働状況の確認には、電圧テスターによる計測（写真2）のほか、通電状況を確認できるLEDライト※（写真3）も有効です。

※ パワーユニットの能力によっては、使用できない場合があるので御注意ください

- LEDライトは、ランプの点滅状況により通電状況を遠くからでも確認することができるため、省力的に確認することができます。



写真2 電圧テスターによる計測



写真3 LEDライト

3 電気柵の撤収（簡易電気柵）

(1) 撤収の必要性

- ポリワイヤーと樹脂製ポールやグラスファイバーポールで構成される簡易電気柵は、積雪の重さによる破損や紫外線による劣化を防ぐため、冬期間は撤収する必要があります（写真4）。
- 農作物を収穫し電気柵が不要になった場合は速やかに撤収します。
- 農作物の収穫後に通電を切り電気柵を放置すると、野生獣が電気の流れていないワイヤーを安全なものとして学習し、電気柵の効果がなくなってしまいます。
- ワイヤーを安全と学習すると、ほかの適切に電気柵を設置したほ場にも侵入するようになるため（写真5）、地域全体で適切な管理に取り組むことが重要です。



写真4 撤収したワイヤーと支柱



写真5 適切に設置したもののシカが侵入したほ場（放置した電気柵が隣接）

(2) 撤収の手順

- 主な作業の手順は次のとおり。
 - ① パワーユニットの電源を切り、ワニ口クリップをワイヤーとアースから外す。
 - ② 危険表示板と簡易緊張具を外し、ワイヤーの緊張を緩める。
 - ③ ワイヤーの高さがある程度保たれる程度に支柱を間引く。

※ 巻き取るワイヤーが他の段のワイヤーに絡まるなどのリスクを下げるため

- ④ 巻き取りボビンを用い、ワイヤーを巻き取る。
- ⑤ 残りの支柱とアースを撤去する。

(3) パワーユニットの保管

- ・ バッテリーは、パワーユニットから外して充電器により十分充電し、パワーユニットの接続端子を外した状態で室内に保管します。
- ・ ソーラー式パワーユニットの保管の際に充電器がない場合は、電源を切った状態で2～3日太陽光に当てて充電してから、バッテリーの端子を外して保管します。
- ・ 十分に充電せず、バッテリーの端子を外さなかった場合はバッテリーが徐々に放電し、完全に放電するとバッテリーが劣化するため、春に使えなくなる可能性があります
- ・ 電池式のパワーユニットの場合は、電池を外して保管します。

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピールする。
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は10月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故
のもと 初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。